

最優秀賞

ゆめがつながる場所

鹿児島県 鹿児島市立原良小学校三年 松下 直司

ぼくには、九つ上のいとこのおにいちゃんがいます。おにいちゃんは、野きゆうをしていて、しょう南高校にかよっています。そのしょう南高校が、今年の夏、こう子園に出場することになりました。

ぼくは、こう子園を知りませんでした。だから、おにいちゃんが出ると決まった時も、ふうん、思っていました。でも、おじいちゃんやお父さん、お母さんは、大よろこびです。グラウンドには、おうだんまくがはられました。それでも、ぼくは意味がわかりませんでした。

終せん記ねん日、ぼくはこう子園きゆう場にいました。鉄ぱんでやかれているようなあつさの中、し合を見ようと、人がいっぱいならんでいました。きゆう場はまんせきです。ぼくは、バッターがよく見えるしょう南のベンチの上のせきにすわりました。

おにいちゃんは、レギュラーではありません。去

年は、四番バッターでし合に出ていましたが、ひじのけがと足のこっせつで、長い間れん習ができなかったからです。一し合目は、出番がありませんでした。ぼくは、今日は、出番がありますように、と思いました。

七回のウラ、しょう南のこうげき、バッターの後ろの円の中に、おにいちゃんのすがたが見えました。「代だ、松下くん。」

アナウンスがひびきわたり、おにいちゃんがだせきに立ちます。ピッチャーをにらむように見つめ、バットをかまえていました。気がつくと、ぼくは、少し前のめりになって、手に力が入っていました。

「マツシタ！マツシタ！」

大きな大きなおうえんの声が、きゆう場をゆらします。

「うてーうてーおにいちゃん！」と、ぼくは、心の

中でさけんでいました。ドキドキして、おうえんが声になりません。ピッチャーが投げたたまは、四きゆう、全部ボールでした。バットを一どもふらないまま、おにいちゃんの夏が終わりしました。

ぼくは、おにいちゃんにヒットをうってほしかったです。でも、だせきに立ったおにいちゃんは、かっこよかったです。ぼくのお父さんも、野きゆうをやっていました。お父さんの弟も、おじいちゃんも野きゆうをしていました。こう子園に行くのがゆめだったそうです。ぼくは、こう子園を知らなかったけれど、こう子園はゆめがつながらる場所なんだと思いました。ぼくのお父さんたちがかなえられなかったゆめを、おにいちゃんがかなえてくれた。おにいちゃんがはたせなかったゆうしよのゆめを相手チームはせおって次のし合にのぞむ。時をこえて、てき味方もこえてこう子園というゆめはずっとつづくのだと思います。おにいちゃんへの大きな声えんを、ぼくは、ずっとわすれません。

